

## 活動報告

## 2015～2024 年に士別市立博物館周辺で実施した秋の自然観察会の記録

本部 哲矢<sup>1)</sup>、斉藤 正勝<sup>2)</sup>

1) 士別市立博物館、2) 士別市立博物館特別学芸員

## はじめに

きのこは、繁殖器官である子実体が大型で、肉眼で見ることができる菌類のことである（五十嵐、2006）。きのこの一部には食用のものもあり、多くの人に親しまれている身近な存在である。

士別市立博物館では、秋の自然に親しみ、地域の自然への興味関心を高めることを目的に、きのこを主な対象とした観察会を定期的で開催しており、特に 2015 年以降は、観察地を士別市立博物館周辺に固定し、継続して実施してきた。今後の士別市立博物館周辺での自然体験活動の参考とするため、近年開催した秋の自然観察会の概要および観察したきのこの記録について報告する。

## 観察会の概要

2015～2024 年の期間に、以下の日程で開催した。秋の自然観察会の枠組みとして実施したため、いずれも 9 月に開催し、2017 年については、子ども向けの通年の体験講座と合わせて開催した。ただし 2018 年は実施せず、2021 年は新型コロナウイルスの影響により中止とした。講座の進行・引率を本部、講師を斉藤が担当した。

- ・ 2015 年 9 月 12 日（土）10:00～12:00  
参加者 11 人（内訳：大人 9 人、子ども 2 人）
- ・ 2016 年 9 月 10 日（土）10:00～12:00  
参加者 8 人（内訳：大人 8 人）
- ・ 2017 年 9 月 9 日（土）10:00～12:00  
参加者 29 人（内訳：大人 13 人、子ども 11 人、保護者 5 人）
- ・ 2019 年 9 月 28 日（土）10:00～12:00  
参加者 20 人（大人 13 人、子ども 7 人）
- ・ 2020 年 9 月 5 日（土）13:30～15:30  
参加者 13 人（大人 9 人、子ども 4 人）
- ・ 2021 年 9 月 5 日（日）  
→新型コロナウイルス感染症の影響により中止
- ・ 2022 年 9 月 3 日（土）9:30～11:45  
参加者 16 人（子ども 8 人、大人 8 人）
- ・ 2023 年 9 月 9 日（土）9:30～11:30

参加者 12 人（大人 5 人、子ども 7 人）

・ 2024 年 9 月 8 日（日）9:30～11:45

参加者 15 人（大人 12 人、子ども 3 人）

## 観察地

士別市立博物館は士別市西士別町に位置し、「グリーンスポーツ」と呼ばれる公園に隣接している。キャンプ場やランニングコースがあり、自然と触れ合いながら健康づくりを楽しむことができる空間となっている。士別市立博物館を集合場所とし、公園内を反時計回りに散策した（図 1）。

## 活動内容

- ① 集合（士別市立博物館）
- ② 講座開始
  - ・ 活動の説明、野外活動の諸注意
- ③ 散策（グリーンスポーツ）
  - ・ ランニングコースや散策路を徒歩で移動しながら、きのこを探索。
  - ・ 発見したきのこは各参加者がメッシュのカゴに入れて収集。
  - ・ 観察したきのこについて、講師より適宜説明。
  - ・ しらかばロッジ周辺でトイレ休憩。
  - ・ 時間に余裕がある場合は、キャンプ場周辺で自由散策の時間を設定。
- ④ 鑑定（士別市立博物館玄関前）
  - ・ ブルーシート上に採集したきのこを広げ、種類毎に仕分け。
  - ・ 同定したきのこの名前を短冊状のメモ用紙に記入し、該当するきのこに添付。参考に食毒の目安を○・×等で記載。
  - ・ 鑑定されたきのこについて、講師より補足説明。
- ⑤ アンケート記入 ※2020 年度以降実施。
- ⑥ 観察会終了後
  - ・ 採集したきのこの一部は標本にして保管。

## 観察記録

2015～2024 年の観察会において、全 98 種のきのこを観察した（表 1）。種の同定は主に「北海道のきのこ

こ」(五十嵐,2006)と「新装改版 北海道きのこ図鑑」(高橋,2012)を参考にし、肉眼での形態による判別を基本とした。同定が不十分なサンプルについては、本報告では除外した。学名や分類については、「日本産きのこ目録2020」(幸徳,2019)を参考にした。

### 参加者の反応

観察会参加者に対して実施したアンケート(回答者25組)により、「満足した」が20名(80%)、「やや満足した」が3名(12%)、「どちらでもない」が2名(8%)という結果となり、ほとんどの参加者が満足に感じていたことが示された。

印象に残ったこと、学んだことを記述する設問では、きのこの多様さや食毒、探すことや見分けることに面白さを感じている回答が多く、「いろいろなきのこを見つけるのが楽しかった」「食べられるか毒があるかを知れた」「子どもはけむりの出るキノコが気に入ったみたい」といった内容が見られた。他にも「グリーンスポーツ内だけでも沢山の種類があるのが面白かった」「自然散策できる場所がここにあると分かった」という観察地に注目した内容も見られた。

### 総括

特定の時期の限られた時間だけで98種のきのこが見られたことから、他の時期に発生するきのこを含めると、士別市立博物館周辺ではより多くのきのこが見られることが予想される。様々な種類のきのこを観察できる場所であり、士別市立博物館からのアクセスを含めて、自然観察に適した場所だと考えられる。今後も士別市立博物館周辺の自然観察を通して、地域の自然の教育普及活動を進めていきたい。

### 謝辞

豊澤勝弘氏には、講座に同行いただき、きのこの種類や生態について助言いただいた。水田一彦氏には、引率補助のご協力をいただいた。ここに記して感謝申し上げる。

### 参考文献

五十嵐恒夫,2006. 北海道のキノコ. 北海道新聞社.  
高橋郁雄,2012. 新装改版 北海道きのこ図鑑. 亜璃西社.  
幸徳伸也,2019. 日本産きのこ目録2020.  
<http://koubeekinoko.chicappa.jp/> (2025年3月1日閲覧)

### 図表

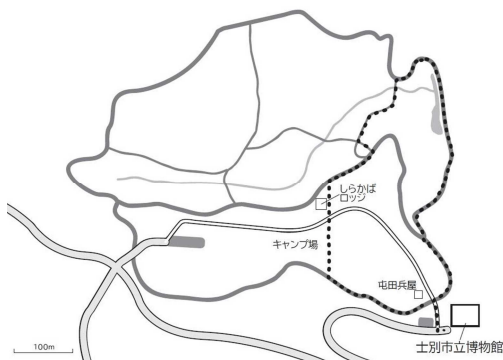


図1. 観察地(点線：散策ルート)



図2. 観察会の様子

表 1. 2015~2024 年の秋の自然観察会で観察したきのこの一覧

分類	和名	学名	2015	2016	2017	2019	2020	2022	2023	2024
【ハラタケ目】										
【ハラタケ科】										
1	ウスキモリノカサ	<i>Agaricus abruptibulbus</i> Peck						○		
2	ナカグロモリノカサ	<i>Agaricus moelleri</i> Wasser	○							
3	ノウタケ	<i>Calvatia craniiiformis</i> (Schwein.) Fr.					○	○		
4	ツネノチャダイゴケ	<i>Crucibulum laeve</i> (Huds.) Kambly						○		
5	アラゲホコリタケ	<i>Lycoperdon echinatum</i> Pers.	○							
6	セイタカノウタケ	<i>Lycoperdon excipuliforme</i> (Scop.) Pers.						○		
7	ホコリタケ	<i>Lycoperdon perlatum</i> Pers.	○	○	○	○	○	○	○	○
【テングタケ科】										
8	タマゴタケ	<i>Amanita caesareoides</i> Lj.N. Vassiljeva	○	○	○		○	○		○
9	カバイロツルタケ	<i>Amanita fulva</i> (Schaeff.) Fr.	○	○	○		○	○		○
10	テングタケ	<i>Amanita pantherina</i> (DC.) Krombh.		○		○		○		○
11	ツルタケ	<i>Amanita vaginata</i> (Bull.) Lam.		○				○		
12	ドクツルタケ	<i>Amanita virosa</i> (Fr.) Bertill.	○							○
【シロソウメンタケ科】										
13	ナギナタタケ	<i>Clavulinopsis fusiformis</i> (Sowerby) Corner					○	○		
14	シロヒメホウキタケ	<i>Ramariopsis kunzei</i> (Fr.) Corner		○				○		
【フウセンタケ科】										
15	チャオビフウセンタケ (キオビフウセンタケ)	<i>Cortinarius triumphans</i> Fr.				○				
【イッポンシメジ科】										
16	ヒメコンイロイッポンシメジ	<i>Entoloma coelestinum</i> (Fr.) Hesler var. <i>violaceum</i> (Kauffman)						○		
17	アカイボカサタケ	<i>Entoloma quadratum</i> (Berk. & M.A. Curtis) E. Horak		○					○	○
18	クサウラベニタケ	<i>Entoloma rhodopolium</i> (Fr.) P. Kumm		○			○			
19	イッポンシメジ	<i>Entoloma sinuatum</i> (Bull.) P. Kumm.	○					○		
【ヒドナンギウム科】										
20	ウラムラサキ	<i>Laccaria amethystina</i> (Huds.) Cooke	○		○					
21	キツネタケ	<i>Laccaria laccata</i> (Scoop.) Cooke	○							
【ヌメリガサ科】										
22	ミズゴケノハナ	<i>Hygrocybe coccineocrenata</i> (P.D. Orton) M.M. Moser	○	○	○	○		○	○	
23	アキヤマタケ	<i>Hygrocybe flavescens</i> (Kauffm.) Sing.	○	○				○		
24	サクラシメジ	<i>Hygrophorus russula</i> (Schaeff. : Fr.) Quél.		○						
【アセタケ科】										
25	シロトマヤタケ	<i>Inocybe geophylla</i> (Fr.) P. Kumm		○		○				○
26	クロトマヤタケ	<i>Inocybe lacera</i> (Fr.) P. Kumm.			○					
【シメジ科】										
27	ハタケシメジ	<i>Lyophyllum decastes</i> (Fr.) Sing.	○			○		○		
28	シャカシメジ	<i>Lyophyllum fumosum</i> (Pers.) P.D. Orton								○

分類	和名	学名	2015	2016	2017	2019	2020	2022	2023	2024
【ホウライタケ科】										
29	オチバタケ	<i>Marasmius androsaceus</i> (L.) Fr.								○
30	ヒロヒダタケ	<i>Megacollybia clitocyboidea</i> R.H. Petersen, Takehashi & Nagas.		○						
【クヌギタケ科】										
31	チシオタケ	<i>Mycena haematopus</i> (Pers.) P. Kumm.				○		○		
【ツキヨタケ科】										
32	モリノカレバタケ	<i>Gymnopus dryophilus</i> (Bull.) Murrill					○	○		
【タマハリタケ科】										
33	ワタゲナラタケ(ヤワナラタケ)	<i>Armillaria gallica</i> Marxm. & Romagn.							○	
34	ホテイナラタケ	<i>Armillaria sinapina</i> Bérubé & Dessur.			○	○				
35	エノキタケ	<i>Flammulina velutipes</i> (Curtis) Singer				○				
36	ヌメリツバタケ	<i>Mucidula venosolamellata</i> Imazeki & Toki emened. Ushijima, Nagas. & N. Maekawa					○	○		
【ヒラタケ科】										
37	ウスヒラタケ	<i>Pleurotus pulmonarius</i> (Fr.) Quéf.			○					
【ナヨタケ科】										
38	イヌセンボンタケ	<i>Coprinellus disseminatus</i> (Pers.) J.E. Lange					○			
【モエギタケ科】										
39	ニガクリタケ	<i>Hypholoma fasciculare</i> (Fr.) P. Kumm.				○				
40	ヌメリスギタケモドキ	<i>Pholiota aurivella</i> (Batsch) P. Kumm.	○			○				
41	チャナメツムタケ	<i>Pholiota lubrica</i> (Pers.) Sing.				○				
42	ツチスギタケ	<i>Pholiota terrestris</i> Overh.				○				
【キシメジ科】										
43	カヤタケ	<i>Infundibulicybe gibba</i> (Pers.) Harmaja	○			○				
44	オシロイシメジ	<i>Leucocybe connata</i> (Schumach.) Vizzini, P. Alvarado, G. Moreno & Consiglio							○	
45	カキシメジ	<i>Tricholoma ustale</i> (Fr.) P. Kumm.							○	
46	サマツモドキ	<i>Tricholomopsis rutilans</i> (Schaeff.) Sing.				○				
【ガマノホタケ科】										
47	ムキタケ	<i>Sarcomyxa edulis</i> (Y.C. Dai, Niemelä & G.F. Qin) T. Saito, A. Tonouchi & Y. Harada								○
【イグチ目】										
【イグチ科】										
48	ヤマドリタケモドキ	<i>Boletus reticulatus</i> Schaeff.							○	
49	アシベニイグチ	<i>Caloboletus calopus</i> (Pers.) Vizzini				○			○	
50	コショウイグチ	<i>Chalciporus piperatus</i> (Bull.) Bataille		○						
51	シロヤマイグチ	<i>Leccinum niveum</i> (Fr.) Šutara	○			○				
52	ヤマイグチ	<i>Leccinum scabrum</i> (Bull.) S. F. Gray	○	○	○	○	○			
53	キンチャヤマイグチ	<i>Leccinum versipelle</i> (Fr. & Hök) Snell	○		○					
54	オニイグチモドキ	<i>Strobilomyces confusus</i> Sing.								○
55	オオクロニガイグチ	<i>Tylopilus alboater</i> (Schwein.) Murrill		○					○	

分類	和名	学名	2015	2016	2017	2019	2020	2022	2023	2024
【オウギタケ科】										
56	ツチグリ	<i>Astraeus hygrometricus</i> [non (Pers.) Morgan] sensu auct. jap.						○		
【ヒダハタケ科】										
57	ハンノキイグチ	<i>Gyrodon lividus</i> (Bull.) Fr.		○	○			○	○	
58	ヒダハタケ	<i>Paxillus involutus</i> (Batsch) Fr.						○		
【ヌメリイグチ科】										
59	ハナイグチ	<i>Suillus grevillei</i> (Klotz.) Sing.	○		○	○				
60	ゴヨウイグチ	<i>Suillus placidus</i> (Bonorden) Sing.	○							
61	シロヌメリイグチ	<i>Suillus viscidus</i> (L.) Roussel						○		
【ラッパタケ目】										
【ラッパタケ科】										
62	ホウキタケ	<i>Ramaria botrytis</i> [non (Pers.) Ricken] sensu auct. jap.						○		○
63	キホウキタケ	<i>Ramaria flava</i> [non (Schaeff.) Qué.] sensu auct. jap.								○
【スッポンタケ目】										
【アカカゴタケ科】										
64	サンコタケ	<i>Pseudocolus fusiformis</i> (E. Fisch.) Lloyd						○		
【スッポンタケ科】										
65	キツネノロウソク	<i>Mutinus caninus</i> (Huds.) Fr.								○
【アンズタケ目】										
【アンズタケ科】										
66	クロラッパタケ	<i>Craterellus comucopioides</i> (L.) Pers.					○			
【カノシタ科】										
67	シロカノシタ	<i>Hydnum repandum</i> L. var. album Qué.				○				
【コウヤクタケ目】										
【コウヤクタケ科】										
68	ヤナギノアカコウヤクタケ	<i>Cytidia salicina</i> (Fr.) Burt				○				
【タバコウロコタケ目】										
【タバコウロコタケ科】										
69	ニツケイタケ	<i>Coltricia cinnamomea</i> (Jacq.) Murrill					○	○		
70	カバノアナタケ	<i>Inonotus obliquus</i> (Ach. ex Pers.) Pilát		○				○		
【タマチョレイタケ目】										
【ツガサルノコシカケ科】										
71	ホウロクタケ	<i>Daedalea dickinsii</i> Yasuda								○
72	マスタケ	<i>Laetiporus cremeiporus</i> Y. Ota & T. Hatt.								○
73	シロカイメンタケ	<i>Piptoporellus soloniensis</i> (Dubois) B.K. Cui, M.L. Han & Y.C. Dai	○							
【シワタケ科】										
74	ハナウロコタケ	<i>Stereopsis burtiana</i> (Peck) D.A. Reid						○		
【タマチョレイタケ科】										
75	ツリガネタケ	<i>Fomes fomentarius</i> (L.) J.J. Kickx	○	○			○		○	○

分類	和名	学名	2015	2016	2017	2019	2020	2022	2023	2024
76	コフキササルノコシカケ	<i>Ganoderma applanatum</i> (Pers.) Pat.			○			○		
77	カイガラタケ	<i>Lenzites betulinus</i> (L.) Fr.	○		○	○				○
78	アシグロタケ	<i>Picipes badius</i> (Pers.) Zmitr. & Kovalenko					○			○
79	カワラタケ	<i>Trametes versicolor</i> (L.) Lloyd	○	○	○	○	○		○	
80	オシロイタケ	<i>Tyromyces chioneus</i> (Fr.) P. Karst.								○
【ベニタケ目】										
【サンゴハリタケ科】										
81	ヤマブシタケ	<i>Heridium erinaceus</i> (Bull.) Pers.			○	○				
【ベニタケ科】										
82	ウグイスチャチチタケ	<i>Lactarius necator</i> (Bull.) Pers.				○				
83	ツチカブリ	<i>Lactifluus piperatus</i> (L.) Roussel	○							
84	ケシロハツモドキ	<i>Lactifluus subvellereus</i> (Peck) Nuytink								○
85	チチタケ	<i>Lactifluus volemus</i> (Fr.) Kuntze					○			
86	クサイロハツ	<i>Russula aeruginea</i> Fr.					○			
87	ニオイコベニタケ	<i>Russula bella</i> Hongo					○			○
88	カワリハツ	<i>Russula cyanoxantha</i> (Schaeff.) Fr.	○							
89	クロハツ	<i>Russula nigricans</i> (Bull.) Fr.					○	○		
90	オキナクサハツ	<i>Russula senis</i> Imai	○	○		○		○		○
【イボタケ目】										
【イボタケ科】										
91	モミジタケ	<i>Thelephora palmata</i> (Scop.) Fr.		○						
【シロキクラゲ目】										
【シロキクラゲ科】										
92	ハナヒラニカワタケ	<i>Phaeotremella foliacea</i> (Pers.) Wedin, J.C. Zamora & Millanes							○	
【ビョウタケ目】										
【ビョウタケ科】										
93	モエギビョウタケ	<i>Bisporella sulfurina</i> (Quéf.) S.E. Carp.			○					
【ズキンタケ科】										
94	アカエノズキンタケ	<i>Leotia stipitata</i> (Bosc.) J. Schröt.							○	
【チャワンタケ目】										
【ノボリリュウ科】										
95	ノボリリュウ	<i>Helvella crispa</i> (Scop.) Fr.				○				
【ベニチャワンタケ科】										
96	アラゲコベニチャワンタケ	<i>Scutellinia scutellata</i> (L.) Lambotte								○
97	ヨソオイチャワンタケ	<i>Sarcoscypha vassiljevae</i> Raitv.								○
【クロサイワイタケ目】										
【クロサイワイタケ科】										
98	ホソツクシタケ	<i>Xylaria magnoliae</i> J.D. Rogers			○					